

～ハケ岳歩こう会創立20周年記念～
甲州街道ウオーク

コースマップ

第3回・府中宿～八王子宿
2018年5月23日(水)

- ・ 距離 約18 km
- ・ 解散 西八王子駅 16:00頃
- ・ 担当者 大嶋俊壽(080-2044-4766)
田中憲一(090-8592-1379)
吉田三男(080-8880-5293)
前田和也(090-5998-5967)

甲州街道第3回 府中宿～八王子宿

府中宿から日野宿の間の甲州街道は洪水により多摩川の川筋がよく変わり、それに伴って道筋も度々変更されてきた。今回は「ハケ下の道」または「ハケの道」と呼ばれる江戸時代初期の甲州街道を歩く。ハケとは崖のことで、多摩川の河岸段丘の崖の下ということから名づけられた。

【谷保天満】

関東三大天満宮(あと二つは湯島・亀戸)の一つで古くから地元鎮守として敬愛されてきた。菅原道真が太宰府に流されたときに道真の三男、道武はこの地に流された。道真の死後、道武がその姿を彫って祀ったものが天満宮のはじまりという。

【万願寺の一里塚】

日本橋から九里目の一里塚、石田大橋から現在の甲州街道との合流までは旧街道の痕跡はあまり残っていないが、数少ない旧街道の名残の一つ。八里目の一里塚も残っているが、NECの工場内で一般には見られない。

【石田大橋(石田の渡し)】

平成19年(2007)に石田大橋が完成したことによってこのハケ下の道を辿る事ができるようになった。甲州街道の道筋の変更とともに渡しも「万願寺の渡し」、「日野の渡し」と変遷していく。裏面に続く・・・

・次回開催 第4回 八王子宿～与瀬宿 2018年7月25日(水) 距離 約16 km 集合 西八王子駅(午前9時30分)

八王子宿～与瀬宿は小仏峠越えで標高差500mほどの上り、下りがあります。整備はされていますが山道を歩きます、トレッキングシューズなどのしっかりした靴がお勧めです。



【万願寺の一里塚】

日本橋から九里目の一里塚、石田大橋から現在の甲州街道との合流までは旧街道の痕跡はあまり残っていないが、数少ない旧街道の名残の一つ。八里目の一里塚も残っているが、NECの工場内で一般には見られない。

【八坂神社】

近藤勇や沖田総司など天然里心流門人らが奉納したとされている額がのこされており、そこから新選組ゆかりの神社として人気、毎年5月に新選組まつりが行われている。

【永福稻荷】

永福稻荷は宝暦6年(1756)に力士八光山権五郎により勧進され、古くこの辺り一帯が竹の鼻と呼ばれていたところから竹の鼻神社とも呼ばれていた。江戸時代甲州街道八王子宿の入り口に位置しているため、江戸時代から往来客による信仰が篤く、寄進された鳥居・天水桶等が境内に現存されている。

【追分道標】

この道標は文化8年(1811)に江戸の足袋職人清八が高尾山に銅製五重塔を奉納した記念に建てたもので新宿、八王子、高尾山麓小名路の三か所のうちの一つ、左「甲州道中高尾山道」(甲州街道)、右「あんげ道」(陣馬街道)とある。昭和20年8月2日の八王子空襲によって四つに折れ一部が行方不明になっていたものが平成15年に復元されこの地に建立された。

【八王子千人同心屋敷跡】

千人同心とはこの付近に住んでいた半農半武の武士集団で、天正10年(1582)武田家の滅亡後、徳川氏によって庇護された武田遺臣を中心に近在の地侍・豪農などによって組織された。その任務は甲州口(武蔵・甲斐国境)の警備と治安維持であった。太平が続いて国境警備としての役割が薄れると日光火の番とって東照宮の警備が主な仕事となった。その後北海道の開拓、幕末には横浜の警護をしたりと活躍したが、最後は徳川とともに駿府に移住し、その後は暇を乞い故郷の村々に帰り農業に従事したと伝えられる。